

社内木鶏会感想用紙

P9. 10:20

2021年 12月 23日

1 月号 を讀んでその中から一つ選んで
次に記入の工、当日考へて下さい。

名前 

松下幸え助と稲森和夫「ほき方に学ぶ」を讀んで

①感じたこと (人生・仕事にどう生かすか 等)（トイガイ）

薫陶とは、すぐれた人格で教え育て上げること。警戒とは、身分の高い人の話を直接聞く、お目にかかる。とある。松下幸え助氏との出会
 会を警戒と表現し、松下政経塾へ出向を命じられた時のエピソード
 をロックアウトされたと話す上甲氏。素人であることを認められたら、
 誠心誠意、尽くすより仕方がなかったのだからと想像する。○素人の
 ほうがええ。○熱心さがあれば道はひらける。松下氏からかけられた
 言葉が今日に至るまで上甲氏を支えているのだ。今までの人生を振り返
 り、私にも忘れられない言葉とかけられた方々がいる。その言葉は温か
 く私を認め今も支えてくれているように思います。こうしてみると人生に
 関わる忘れられない言葉は、個性を生かす温かい言葉が多いのでは
 ないかと考えます。時には厳しい言葉で目が覚める瞬間も必要なの
 かもしれないがそれは瞬間的に改善を望まず、人を育て伸ばして行く
 事にはつなかりにくいと感じる。警戒を謙虚に受け止め、誠実に努める

②仲間の発表を聞いて気付いたこと | ことで人は成長できると感じた。

社内木鶏会感想用紙

P9. ⑩ 20

2021年 12月23日

1 月号 を読んでその中から一つ選び、次に記入の上、当日考へてください。

名前 ■■■■

清き心、直き心こそ誠への道

①感じたこと（人生・仕事にどう生かすか 等）

「二つの実践とバツリで荒んだ神社を再建」パッと聞くと、
 二つ？ と思ってしまうが、長い間続けてきたからこそ出来た
 ことなのだと感じました。「掃除」は誰でしてできるけど、それを継続する
 ことは誰でもできるわけではありません。またなかなか気づかれない
 部分でもありますので、今日はこのくらいでいいかな？ 等甘えたバツが出て
 きてしまう場所でもあります。そこを厳しく、ただ掃除をするだけでなく、
 さらに綺麗になるようバツリしてきたからこそ素敵な言葉を掛けていたのだ
 のだと思います。また分からないことを「知りません」で終わらせない
 こと。これはお客様との信頼の為に、自分の成長の為に、とても
 大切なことだと思います。会話の中のちょっとした質問を逃さず、誠意ある
 行動をバツリしてきたいと思いました。実家での大掃除は毎年窓掃除
 を担当していましたが、昨年はある道具だけで掃除をしていたため、納得の
 いかないまま新年を迎えてしまいました。今年は掃除道具を一式揃えて準備万端
 掃除をして家中を清め、バツの機材を洗って、しっくわをツツアツアツと新年を迎えたいと思いました。

②仲間の発表を聞いて気付いたこと

社内木鶏会感想用紙

P⑨. 10. 20

2021年 12月 23日

1 月号 を説人で その中から一つ選んで
次に記入の上、当日参加ください。

名前

特集 人生 - 誠 に 帰す

① 感じたこと (人生・仕事にどう生かすか 等)

柴田和子さん 森村市左衛門 東郷平八郎 西郷隆盛 カシタノリノブ 元田永
 字らの至誠、誠実への思いなど、少しずつではあ、たが知る
 ことができ、新しい年を迎える前に考える時間が持てた
 ことはとてもよかった。 "正直者がバカを見る" という言葉
 もあるように 正直者が損をすることが多いように思えてしま
 いがらたが、5人の功績が人生の勝ち組ということを証明し
 ている。1人では成し得なかったことも、周りの人々がその生き様に
 魅了され、協力者が増えていったのではないだろうかと思像した。
 それは、結果を急がず信念を貫いたからなのだろう。
 私も「正直、親切、勤勉」を頭に置いて行動するように
 心掛り、"急かば回れ"と己をコントロールしながら
 コツコツと人生を歩んで行きたい。

② 仲間の発表を聞いて気付いたこと

社内木鶏会感想用紙

P9. 10. 20

2021年 12月 23日

1 月号 ^{を讀んでその中から一つ選んで、}
次に記入の上 当日参考ください。

名前

松下幸え助と稲盛和夫の生かすに学ぶ (P20)

① 感じたこと (人生・仕事にどう生かすか 等)

今回の対談で上甲氏、大田氏が達人な経営者2人について語られている。まずは大田氏が語る稲盛和夫氏。とくに愛があれば智慧が働くという言葉が印象的であった。物事に対して誠実で前向きな感情を持って接すると、何かしら良い成果結果が得られるだろう。次に上甲氏が語る松下幸え助氏。熱心さにおいて誰にも負けなかつたら、道は必ずひらけるという言葉に勇気を頂いた。自身の熱心さを保つために、目的目標を明確にし、私の軸であるお客様に笑顔とありがとうを常に念頭に置き行動していきたい。毎度のことだが、致知を讀むと、自分がいかに未熟な人間か考えさせられる。とくに、大田氏の言葉をしたいてという煩惱が渦巻いてしまうが、神に打ち勝つため、人間力を磨いていかねばならない。いよいよ我々も繁忙期を迎えているが、忙しいときこそ人間力が試されると思うので、愛と熱心さを忘れずに取り組みたい。そして来年は  には必ず参加したい。

② 仲間の発表を聞いて気付いたこと 良いスタートを切りたい。

社内木鶏会感想用紙

P 9. 10. 20

2021年 12月 23日

1 月号 ^{を以て} 読んで その中から一つ選んで
次に記入の上 当日参加ください。

名前 XXXXXXXXXX

「松下幸え助と稲盛和夫の生き方に学ぶ」も読んで

① 感じたこと (人生・仕事にどう生かすか 等)

経営の神様と呼ばれる二人の側近にいた上甲氏と大田氏だが、対談の最後上甲氏が放った言葉に衝撃を受けた。「老後という考えはあり得ない、常にこれからが人生の本番である」と。上甲氏は年齢80である。この活きの源泉は何か？ それは文中にあるように 使命感と志なのだろう。この対談は経営者の考え方が題材となっているが、サラリーマンに置き換えることでも大きな気付きとなる。例えば、経営者に利己的な思いがあるが社員はついてこれないか？ これは社員にとっても同じだ。組織において損得だけで動いているようでは、一時的な利得があっても長期的には不利になるだろう。またこの事はお客様に対しても同じ事が言える。経営者が掲げた理念についても、社員がそれを指針とする事で事業の推進に大きな力が働ける。事務所理念にある「お客様コース」や「信頼のパートナー」という言葉はシンプルだがとても深い。コースを感じ取るためにどなた相手も考えらるか。信頼を得て、パートナーと思ってもらうためには、どんな事をすれば良いのか。今一度、この理念を胸に刻み、行動を見直す必要があると感じた。

② 仲間の発表を聞いて気付いたこと

社内木鶏会感想用紙

P9. 10. 20

2021年 12月 23日

1 月号 ^{を読んで その中から一つ選んで}
次に記入の上、当日お持ちください。

名前

人生 一誠に帰す (特集)

① 感じたこと (人生・仕事にどう生かすか 等)

今日は内容がとても濃く金太郎館で「おひか」とのページからも心に響く
おもしろい言葉に生かされた。よって特集と選んでみた私の祖母も農閑期になると
お泊りにきていた毎朝縁側で太陽に手を合わせ拝んでいた姿を思い返
日本人は農耕民族である。稲作を通じて文化が伝承してきた。人々にとって恵み
の太陽は神だった。私も幼少の頃から「何れにもお天道様は見てる」と言われて
育ってきた。この特集に登場する柴田氏も母の孝行と守り正直親切勤儉を心
に留め日々実践してきた。その人間力を高め人の驚く成果へと繋がっていた。
誠の意味なら小学生でも知っている。しかし心に留め実行するのは難しい
のである。この文中に「中庸」とある。p33に「いかなる場合でも誠実を貫き道徳の心
を貫く」と大切さを伝えている。書物として、これは哲学である。鈴木大拙の哲学
とは人の暮らしに普遍にあるもの。それは実行・経験して自身につくものとおも
う。読後心に残った言葉。吉田公陰の誠は「一に実行、中身あり、二に集中、三に
持続ある」として、自らに課せられた現役鎌倉彫師乾澤田敏子氏の「人の一流、二流は

p33

② 仲間の発表を聞いて気付いたこと

^{自分の} ^が ^差 ^を ^下 ^の ^私 ^は ^カ ^ツ ^ン ^と ^や ^ら ^れ
半年からどう生きていこうかと考えさせられた

社内木鶏会感想用紙

P9.10.20

2021年 12月23日

1 月号 読んで 読んだ中から一つ選んで
次に記入の工夫をうけたら

名前 [Redacted]

「清々^あ明^あの直^あ心^あと誠^あの直^あ」を読んで

① 感じたこと (人生・仕事にどう生かすか 等)

我が国の四季が初めは美しい。日本では自然界の万物に神が宿ると言われ
 いたるところに。我が家の裏手には、一本の道路を挟んで結構な規模の
 生産緑地指定の森林がある。春は新緑が清々しい。秋は紅葉が目玉で
 恵みと環境であると思われ。冬初めの11、12月9分時は大量の落葉が道路に
 山積し、掃き仕事は結構きつい。寒い日には落葉を掃き集めて
 落葉をカマで集めていり、2中へ通路の側から、2中へついで何やら
 川に流す。強い風が吹けば一瞬で再び掃き集める必要が
 作業にも思われる。人生も同じで、何も無駄な様に思われることも
 誠心誠意行えば、心積りでいられる。見知らぬ通行人に「お疲れ様
 いっぺりか」といわれる。ほっとして、心積りでいられる。心積りでいられる。
 旧を愛せよ。昔前、長年話した。思っていた。出雲大社を参拝し、旧暦10月に
 出雲大社に参拝する。神の降りて、稲佐の次に出向く。野山でも神の
 気配を感じた。日本では身のまわりの神が存在する。自分の心で心を成す。小豆の

② 仲間の発表を聞いて気付いたこと 誠とついでいけば神は目撃できる。川は心積りで

心積りでいられる。

社内木鶏会感想用紙

P.9.10.20

2021年 12月23日

1 月号 を讀んでその中から一つを選び、次に記入の上、当日参加ください。

名前 XXXXXXXXXX

P20 「松下幸之助と稻森和夫の生き方に学ぶ」と読んで

①感じたこと（人生・仕事にどう生かすか 等）

昭和と平成^{時代を代表する}の二人の偉人は経営者が語る人生哲学、経営哲学は、数多くあります。今回の対談は、二人の共通項という意味合いでも興味深く読み、感心する場面も多々ありました。

私自身この一年間を振り返ってみますと、実力不足を感じており、来年は、もっと勉強せよばと思っておりました。文中の言葉に

「おろと思、ているけれど、それは違、う。人間の勉強や、人間の本質が分からなければ、学問のための学問に終わってしま、う。」が印象的であり、人間と学ばなければならぬと意を改、正いたしました。

ところで、私の弟の名前は、一文字で「誠」です。うちの親もいい名前をつけたものです。コトナ禍が久く合、つていませんが、今後の帰省では、合、つて話ができそうです。手土産には、今月の特集号がピッタリと思います。さて、何て言うかなあ。

②仲間の発表を聞いて気付いたこと
